

果樹の新しい高接法

皮下接について

新しい高接法皮下接

適地に適作

「適地適作」という言葉は古くよりいいならされた言葉であるが、案外無関心な方が多い。しかし昨年のように冷害に見舞われ、特に稻作などにおいて余りにも如実にその言葉の真意を示されて、精神的にも經濟的にも強い影響を受けさせられた次第である。

農民の中で蔬菜園芸家は割合にこの言葉に敏感である。最近の蔬菜の品種を見ても地方的にその栽培品種に大きな相違が認められる。すなわち北方には寒地型、南方には暖地型の品種を栽培し、その進歩の様相は近々十数年で隔世の感がある。

しかし同じ園芸家でも果樹の方は永年作物もある関係か、割合この点遅れをとつておるようである。本来は永年作物であるが故に一層の関心と研究心を持つべきものである。多くの果樹栽培家は不適当な品種と知りながらも折角植栽したのであるからと、あきらめの感で栽培を続けておる方も見受けれるが、現在の栽培品種に十分の検討を加え、優良品種を高接更新し、有利な方法による方法が用いられておつた。しかし前

經營を行うよう心掛くべきである。

従来の高接法

従来品種更新に適用された高接法は、大



皮下接法による更新の状態

本法を行ふ上に
最も注意を要する
ことは接木の時期

と接穗を上手に貯蔵することである。

接木の時期

梨、りんごなどは開花直前、

接木の完了し

接木部に山型に
切れ目を入れる
たところ

接木の短い切れ面が主枝の材部に長い切れ面が樹皮に接着するようハメ込むのである。

穂の插入が終つたら固定するため樹皮の上から虫ピンを一個所あるいは二個所打ち込む。その後二十度程度のバラフインを罐詰の空罐に入れ火をかけて溶かし、これを

白幡喜一

の技術が誰にも容易には行わないことと数多くの芽と手数を要し、その全面的な更新はなかなか容易でない欠点がある。

もよく活着するが主枝の側面または上面部が望ましい。この開花直前の時期は容易に樹皮と材部とが剥がれる。この間に予め準備した接穗を挿しこむのである。

接穗 接穗は果樹の休眠期すなわち十一月下旬から二月下旬までにとり、穂木の育枝の上下部は切り捨て図のように二~三芽宛に切断し、普通切接の穂のそぎ方と反対に上部の芽のある側を切出しで長くそれを減すことなく、接された穂が成育するにつれて邪魔になる枝を順次切り去り、逐次希望品種に更新できるのである。またその方法は危険もなく、特に面倒な技術も要せず誰人にも容易にできる利点がある。

接木の方法 接木部の枝に切出(ナイフなど)で山型に切れ目を入れ、樹皮を剥がす。この開花直前の時期は容易に樹皮と材部とが剥がれる。この間に予め準備した接穗を挿しこむのである。

皮との隙間など全面に塗布し乾燥と雨水の入るのを防止する。

以上で接木操作は全く終了するのである

が一度試みられればわかるが、簡単で誰に

も容易に行われ、しかも活着率はほとんど100%であり、その結果が極めてよいのでここに紹介した次第であります。

レッドゴールド、アーリエースト、ジョナ

種なし西瓜の栽培要點

種なし西瓜は単種（普通種）の二倍性と、特殊処理により育成された四倍性の交配による三倍性で、雑種強勢がよく発現されるものである。従つて単種に比較して草勢強く炭疽病、疫病等の病害に耐え、収穫日数が短縮され、三割以上の増収である。

しかし種なし西瓜は交配の組合せ、採種方法によつて差違があり一率ではないが、普通種よりも秕（しいな）が多く、その判定は外観では困難である。そのため普通の播き方では発芽の低率を免れないから、その栽培要点を記して参考に供する。

一手頃の針切りまたはベンチ類で種子の先端を軽く挟んで割るか、あるいは胚を傷つけないように種子先端部両側の外皮を切断すると発芽率が高まるようである。切断の終つたものを、ウスルパン八百倍液に三十分くらい浸漬して、十分清水で洗い直ちに播種する。

二 発芽温度は高温である。三倍性西瓜で最も肝要な点は温度である。各研究者の一致した意見では発芽床の温度が三十度であれば、普通西瓜と大差がないが、それ以下に降れば比例して発芽率が低下し、二十度前後では二〇%になる。必ず発芽床の温度は三十度前後を保つようにしなければならない。播種後は毎日二回灌水するが、その際に検温して温度の調節を図る。このようにして管理すれば播種後五日くらいで全部生え揃う。発芽後はやや低温にして徒長を防止する。過温はかえつて生育を阻害し、異状子葉のものが多くなる。

三 移植の適期はなるべく早い方がよく、甲折葉が展開を始めるまでには移植するがよい。育苗温床にはビニールを使用すれば胚軸の徒長が少い。

四 三倍性西瓜すなわち種子なし西瓜の花粉は不稔であるから、授粉用として二倍性（普通種）を混植しなければならない。その場合の混植比率は自然交配の場合には、五分の一程度が適当である。しかし初期は人工交配した方が着率がよく、この場合の授粉用は十分の一程度あれば十分である。

授粉用の配置は蜂の習性を考え、各列毎に最低一本を植える。（小松記）

苺のなる

クロバード

写真で御覧のようにクロバードは苺がなつております。但しこれは今評判の苺「フェアファックス」や「ドルセット」とは違つて食べられないのが残念です。

これは「ストロベリークロバード」と言うまめ科の多年草で、寒冷な気候や、相当の湿潤な土壤や、塩水の侵入する地方に試みられて成功している牧草で、また長期の冠水にも枯死しないといわれています。札幌（雪印種苗上野幌育種場）や千葉県（雪印種苗千葉育種場）でも相当の石炭を施して試作した結果、二年目からは案外に旺盛な生育を示し、白クロバードにも劣らないような状態をしております。この苺のようなものは種子のできる頭花です。（なかの記）

レットなど新品種への更新に大いに活用されることを望む次第であります。

（筆者は雪印種苗・藤之澤育種場長）



牧草と園芸

昭和二十九年五月一日定価三十円
(毎月一回一日発行)

送料四円

号

印 刷 所 人 人 兼
發 行 所 田 嵐
札幌興國印刷株式会社
雪印種苗株式会社
振替小切一八二四八番
清